

3

Della only had as little as a dollar and sixteen cents in her pocket.

Although tomorrow was Christmas, that was the only money she had to buy a gift for her husband, *Jim*.

Even if she tries to sell some unnecessary things to collect money, in the poor, young couple's house, there was nothing but things they needed daily.



5

"Oh, what kind of gift would make Jim happy? I think something expensive and rare would be nice. But there's no way I can get such a thing with this much money."

Incidentally, a small mirror hanging on the wall came into her sight.

She gazed at herself in the mirror and had a sudden flash of inspiration.

"Yes! That's right. I still have this!"

Della immediately untied her hair and neatly combed her long, brown hair, straightening it out.



23

『デラ』のポケットのなかには、
たった1ドル16セントしかありませんでした。
あすはもうクリスマスだというのに、
おっとの『ジム』にプレゼントをかってあげる
おかねが、これだけしかないので。

いらないものをうって
おかねにかえようとしても、
まずしくてわかいふたりのいえには、
くらしにひつようなものいがい
なにもありませんでした。



「ジムに どんな プレゼントを おくったら、
よろこんで もらえるかしら。
こうかで、めずらしいものが いいんだけど
・・・このおかねじゃ とても むりよね」

ふと デラの めに、かべに かけられた
ちいさな かがみが うつりました。
かがみに うつる じぶんを じっと みつめていた
デラの かおが、パッと かがやきました。

「そうだ、これよ！
わたしには まだ、これが あったわ！」

デラは むすばれていた かみのけを ほどき、
ブラウンの ながい かみを、
くしで ていねいに のばしました。

